地域活用の事例について

2019 年 4 月 19 日
不動まゆう

１、　地元自治体による「灯台登れる化」計画



・鮫角灯台（青森県八戸市）
毎年４月中旬から夏休みにかけて公開（土日祝日、夏休み期間は毎日）
八戸シーガルビューホテルがカギを管理し、海上保安庁ＯＢの方がガイドを行っている。

・野間埼灯台（愛知県美浜町）
美浜まちラボという地元団体が 2021 年までに「登れる化」実現のため奮闘中。そのための費用を、クラウドファンディングや、ふるさと納税の目的に加えることなどを検討。

・勝浦灯台（千葉県勝浦市）
日本航路標識協会が３月に一般公開を開催。「ビッグひな祭り」に合わせて巡回バスも灯台をルートに加えるよう市からも協力を得る。

２、　初点灯〇〇周年イベント



・石狩灯台 125 周年（北海道石狩市）2017 年１０月開催
灯台一般公開
２代目レンズの里帰り（翌年初代と思われるレンズが市に寄贈された）
灯台に関する講演



・佐田岬灯台 100 周年（愛媛県伊方町）2017 年５月開催
灯台一般公開
インスタグラムフォトコンテスト
灯台に関する講演
公開ラジオ放送

・塩屋埼灯台 120 周年（福島県いわき市）
「とよまの灯台１２０周年」イベントに向けて
灯台周辺の清掃と花壇づくり
灯台レンズ磨きや講演会等
県と市からの補助金で総事業費の８０％相当を賄う

3、　灯台ツアー

・佐渡島の灯台ツアー（新潟県佐渡島）2018 年 10 月　東海汽船
・恋する灯台モデルツアー伊王島灯台（長崎県伊王島）　海と日本プロジェクト
・恋する灯台モデルツアー鼠ヶ関灯台（山形県鶴岡市）　海と日本プロジェクト
・第二海堡ツアー　日本ツーリズム
・粟島灯台ツアー（新潟県粟島）　粟島観光協会



●集合場所:鼠ヶ関駅 灯台モニュメント前 ※駐車場有り
●参加資格:20歳以上のカップル(年齢・男女問わず)
●募集組数:**10組程度(先着順)**
●主なツアー内容:
　・**ウェルカムランチ(恋する灯台パフェ付き)**
　・二人乗りカヤックで、海から灯台を愛でよう
　・当日開催の関ふぐまつりを楽しもう
　・貝殻絵馬づくり体験＆不動まゆうさんの灯台レクチャー
　・周辺散策で日本一と言われる日本海の夕陽を堪能
　・**超人気店！朝日屋の絶品お寿司でディナー**
●参加費:お一人様4,000円(税込)
　・参加費に含まれるもの(傷害保険、昼食、夕食、散策ガイド、カヤック料金)
　・含まれないもの(現地までの交通費、宿泊希望する方の宿泊代)
●持ち物:タオル、着替え、雨具
●服装:カヤック時は濡れてもいい服装(服、靴) ※ビーチサンダルNG。その他は動きやすい服装

※悪天候の場合はカヤックではなくイカの一夜干し作り体験に変更。また、ツアー内容が変更になる場合がございます。

主　催:海と日本プロジェクトin山形実行委員会 お問合せ先:事務局／(株)エイチ・エフ・ピー内 TEL.023-666-6967
参加受付:株式会社農協観光 庄内営業支店　電話(0234)24-0484　FAX(0234)24-0480
〒998-0838 酒田市山居町2-3-8(庄内JAビル1F) http://ntour.jp
■営業日:月曜日～金曜日(祝日は除きます)　■営業時間:午前9時～午後5時30分

灯台ツアー　企画案

2017 年 9 月 10 日 不動まゆう

□今回提案するツアーの対象者について

すでに灯台に興味を持っている「灯台ファン」を対象とする。そのため、個人では立地的に訪問が難しい灯台を行程に入れた。海上保安庁の協力が必須となるため、時間に余裕を持って依頼を行うことや、安全対策が重要となるが、通常は立ち入り禁止となっている区域や灯台内部の見学ができることは最大のウリとなる。この機会を逃したら一生いけないかもしれない！というマニア心をくすぐる内容としている。また、元灯台守の方、海上保安庁の職員の方、灯台研究者から灯台の知識や魅力についてお話いただく講演も組み込みたい。

灯台ツアー案　その１

「夜のチキウ岬灯台に感動！そして廃灯にも潜入する！室蘭・小樽灯台ツアー」

日数：2 泊 3 日

出発地点：函館空港

訪問灯台：８基

協力依頼先：海上保安庁、第一管区海上保安本部、室蘭海上保安部、小樽海上保安部

1 日目

苫小牧灯台



昭和 40 年に建てられた背の高い灯台。赤白の縞模様に北海道らしさを感じることができる（日本の灯台は白く塗装していることが多いですが、積雪地では雪に紛れないように赤や黒の縞模様を付けています)。

アヨロ鼻灯台（廃止）

昭和 51 年に建てられた灯台だが、2016　年に廃止されてしまった。現在灯台は絶滅の危機に瀕しており、こうした廃止された灯台への哀悼の想いが灯台ファンの中で強く沸き起こっている。この灯台に「お疲れさまでした」と伝えたい灯台ファンも多いと考える。

大黒島灯台（室蘭市）

1887 年（明治 24 年）に建てられた灯台。室蘭港に浮かぶ大黒島の一番高みに建つ。すでに廃止され現在は廃墟のような姿で残っている。一般人立ち入り禁止となっているので、マニアは憧れを一層募らせている。またＮＨＫの「ぐるりニッポン灯台紀行」では内部の取材が許されており、その映像をみて灯台マニアだけではなく廃墟マニアからも注目をあびているハズ。

チキウ岬灯台（室蘭市）



1920 年（大正 9 年）に建てられた灯台。「日本の灯台 50 選」「土木学会選奨土木遺産」に選ばれたコンクリート造り八角形の白灯台。「地球岬の絶景」 は室蘭八景になっており、100m 前後の断崖絶壁が連なる。希少となったフレネルレンズも健在（第三等小型）。
通常は見晴らし台から灯台を眺めることしかできず、灯台の近くは立ち入り禁止となっているので、海上保安部に協力してもらい内部の見学ができれば灯台ファンはとても喜ぶ。
※ ここはぜひ夜の点灯シーンを眺められるようにスケジュールを組みたい。敷地内でテント泊ができたらいいなぁ。

2 日目

神威岬灯台



室蘭から車を北に走らせること３時間弱。長い岬の先にある灯台だが、遊歩道が整備されており徒歩 30 分ほど絶景をトレッキングすることで灯台にたどり着ける（ただし強風時は立ち入り禁止）。昔は女人禁制の地であり、多くの伝説や逸話の残る地。灯台守の為に村人が掘った念仏トンネルと合わせて見学をしたい。

積丹出岬灯台



昭和 40 年に建てらえた小型の灯台。だが、形がとてもかわいいフォトジェニックな灯台。

日和山灯台

映画「喜びも悲しみも幾年月」のラストシーンに登場する灯台。絶景も楽しめる。天気が良ければ夕日を楽しむこともでき、その後に点灯する灯台の美しさに酔いしれることができるはず。

3 日 目

石狩灯台



北海道最古の灯台であり、数の多くない鉄造灯台。映画「喜びも悲しみも幾年月」を撮影する際、せっかくのカラー映画なのだからと、白一色灯台から赤白の灯台に塗り替えられた。
近くにカフェがあり、そこで石狩灯台で灯台守をされていた方にお話しを聞くというイベントも可能だと思う。

このツアーのポイント

大きなウリが２つある。１つはチキウ岬灯台に入ることができること。この灯台は通常は近くから眺めることができない。年に1度、一般公開（昼間）があるが、多くの人が来場するためゆっくり見ることができない。さらに夜間見学（テント泊）が可能となれば、灯台のレンズマニアにはたまらない企画となる。さらにもうひとつは、現在廃墟と化した大黒島灯台の見学。また、神威岬灯台、日和山灯台、石狩灯台も合わせて内部見学に加え、灯台守をされていた方との交流が可能となれば大きな魅力となる。

全体のスケジュールの一例

	出発地	出発時刻	交通手段	移動時間	到着地	到着時刻	滞在時間
1 日目	新千歳空港	1000	バス	0:40	苫小牧灯台	1040	1:00
	苫小牧灯台	1140	バス	0:20	レストラン	12:00	1:00
	レストラン	1300	バス	0:30	アヨロ鼻灯台	13:30	0:40
	アヨロ鼻灯台	1410	バス	0:50	室蘭港	1500	
	室蘭港	1500	船と歩き	0:50	大黒島灯台	1550	1:00
	大黒島灯台	1550	船と歩き	0:50	室蘭港	1640	
	室蘭港	1640	バス	0:20	チキウ岬灯台	1700	宿泊
2 日目	チキウ岬灯台	800	バス	3:00	神威岬灯台	1100	2:00
	神威岬灯台	1300	バス	0:20	レストラン	1320	1:00
	レストラン	1420	バス	0:20	積丹出岬灯台	1420	1:00
	積丹出岬灯台	1540	バス	1:20	日和山灯台	17:00	1:30
3 日目	ホテル	8:00	バス	1:00	石狩灯台	9:00	2:00
	石狩灯台	11:00	バス	0:50	札幌	12:00	解散

灯台内部を見学する場合、灯台での滞在時間は最低でも１時間は必要。人数によっては１時間半～２時間見ておいたほうがいいかもしれない。灯台マニアは様々な角度から写真を撮り、人が入らないように「人どき待ち」をするので時間もかかる。また日没時間には、レンズが入っている灯台、もしくは夕日の美しく見える場所の灯台を訪問するように意識したい。

灯台ツアー案　その２

「マニア憧れの水ノ子島、白州灯台へ上陸！北九州灯台ツアー」

日数：2 泊 3 日
出発地点：北九州空港
訪問灯台：６基
協力依頼先：海上保安庁、第 7 管区海上保安本部、各海上保安部、岩松助左衛門翁顕彰会など

1 日 目

白州灯台



小倉の沖合の浅瀬に立つ灯台。江戸の後期、岩松助左衛門が私財をつぎ 込み、寄付を募って灯台建築に尽力した歴史がある。昨年まで年に一度 の清掃活動として小学生を上陸させていたが、今年から中止。灯台マニアが憧れの気持ちをさらに募らせている。二階堂の CM にも行われたことがあり、その佇まい、灯台の美しさは「日本の灯台５０選」でも評価されている。近くの漁港から船で 20 分ほど。また、岩松助左衛門のご子孫の方にお話を伺うことも可能だと考える（面識あり）。

部埼灯台



江戸後期、僧侶が灯台の代わりに毎晩火を灯していたことがこの灯台の前身。日本で唯一の「連成不動単閃白光」という珍しい光を放つフレネルレンズを備える。レンズマニア垂涎の灯台。内部の見学に加え、点灯シーンも必見。可能であれば、夜間に海上から部埼灯台の光がどのように見えるかの見学ができればパーフェクト。日本で唯一の光を放っているため、興味をもつ灯台マニアが多い。
周囲には、言い伝えとして残る僧侶の像が建てられ、火炊場も残る。

2 日 目

姫島灯台



明治期の保存灯台として B ランクの評価を受ける。石造りの灯台でとても美しい。灯台守が住んでいた官舎は現在休憩所になっており、展示の見学も可能。

関埼灯台

佐賀関半島の突端にたつ鉄造りの灯台。細かな部分まで美しい意匠が施され、内部は板目張りとなっていて当時の日本の職人の技術に驚くことができるはず。この灯台で使われていたレンズは近くの海星館で見学が可能。夕食は関アジを食べれば、灯台欲だけでなくグルメ欲も満たされる。

3 日目

水ノ子島灯台

豊後水道の真ん中の草木も生えぬ無人島にたつ。日本の離島灯台として最も背が高い明治37年に建てられた灯台。保存灯台としてAランクの評価を受け、なおかつ第三等大型フレネルレンズを備える。全国に憧れるマニアが多い。本当にヤバいぐらいかっこいい灯台。不動は日本で一番だと考えている。しかし佐伯港から船で30〜40分かかり、定期船はないため船をチャーターしなくてはならず、また大変荒れる海域のためなかなか行くことができない。この灯台の内部に入ることができるのなら、日本中から灯台マニアが集まると思う。（ただし、船着き場はなく、岩場は大変滑るため平均以上の運動神経とすべらない靴が必要）

「佐伯市水ノ子島渡り鳥館」は元灯台守の生活していた宿舎で、現在は灯台や、灯台守の生活を知ることができる展示施設となっている。また水ノ子島灯台に衝突した渡り鳥の剥製（当時の灯台守の方が剥製として残していたもの）が展示され、渡り鳥に関しても世界有数の学術資料となっている。



鶴御埼灯台

軍事上の要塞として重要な意味をもっていた場所に立つ灯台。砲台の跡地も見学ができる。

このツアーのポイント

とにかく水ノ子島灯台、白州灯台は憧れている灯台マニアが多い。中に入れるチャンスはこの先もないと考えるので注目を浴びると思う。またこの企画の６基はすべて通常は入れない灯台なので、内部見学は大きな価値がある。

灯台ツアー案　その３

「灯台の魅力に出会う！灯台史を学び美しいレンズを堪能する灯台ツアー！」

日数：１泊　2
日出発地点：横
浜訪問灯台：６
基
協力依頼先：海上保安庁、第３管区海上保安本部、横須賀海上保安部

この企画は灯台初心者の方にも楽しんでもらえるように、灯台を「学べる」ツアーにしました。しかしマニア受けもするように第二海堡灯台など激レア灯台も組み込んでいます。

1 日目

横浜海上保安部

横浜海上保安部の交通課長は知る人ぞ知る明治期の灯台研究者。この方に灯台の歴史、明治期の灯台の特徴などを講演してもらう。またこの後に見学する「横浜北水堤灯台」で使われていたレンズも展示してある。横浜で「灯台発祥の地」と呼ばれる灯台寮の試験灯台跡をガイド付きで見学。

横浜北水堤灯台



日本に現存する最古の現役防波堤灯台。六角形すそ広がりのシルエットが目を引く。赤灯台として横浜のシンボル的存在だが、中を見学したことがある人は稀。明治 29 年に建てられた120年の歴史を感じる防波堤灯台。

観音埼灯台

日本で最初に建てられた西洋式の灯台。現在は３代目だが、来年の灯台１５０周年は、この灯台が建てられた年から数えている。現在の灯台の建っている崖の下には２代目の灯台の残骸も残る。２代目の写真と比較しながら、残骸を見学するのも面白い。

2 日目

第二海堡灯台

テレビ番組「鉄腕ダッシュ」で撮影されたことから一般の方々にも広く知られるようになったが、通常は一般の立ち入りが禁止されている海上の要塞。白亜のシンプルな灯台だが、現在でも第５等フレネルレンズが残る。
灯台マニアだけでなく要塞マニアも食いつく可能性大アリ。



海獺島灯台

久里浜港の沖の岩礁に建てられた灯台。白地に黒の縞模様が入っていて小型ながらもとてもチャーミング。フェリーから眺めることはできるが

通常は上陸ができないため、憧れている灯台マニアが多い。上陸と内部見学ができればこの上ない喜びとなるだろう。

剱埼灯台
これまで一般公開されることが少なかった灯台。第３等大型のレンズが魅力。日中に中を見学させてもらい、夕暮れの点灯を見届けて帰ると灯台の光の美しさを堪能できる。



この企画書に添付した写真は、不動が撮影したものの他に、手持ちにないものは海上保安部 HP や、WEB 上に掲載されていた写真も使用させていただきました。
転用されませんようお願いいたします。

灯台マニア　不動まゆう
 東京生まれ。国立音楽大学卒業。
灯台マニアがおくる崖っぷちマガジン「灯台どうだい?」の編集長。
羽田空港近くの公園から見た東京湾に建つ「東京灯標」が放つ光に心を奪われ、
それ以降、灯台の魅力や個性を多くの人達に知ってもらう為に活動を開始。
「灯台愛好会 ライトハウスラバーズ」に所属して毎年「灯台フォーラム」を企画・運営しながら、
2014 年からは編集長として灯台専門のフリーペーパー「灯台どうだい?」を創刊。

灯台愛が溢れるフリーペーパーは「月曜から夜ふかし(日テレ)」や「有吉ジャポン(TBS)」でも紹介され、
同テレビ番組をはじめ、WEB メディアやラジオへの出演等、「灯台」や「フレネルレンズ」の文化的価値を訴えながら、「100 年後の海にも美しい灯台とレンズを残す」ことを目指して活動の幅を広げ続けている。
著書「灯台はそそる(光文社)」「灯台に恋したらどうだい?」。